

ガストロノミックツーリズム in 北海道

～食と文化の観点から地域を見つめ、北海道を学ぶ旅～

第12話 「留萌」

遊佐 順和 (ゆさ よりかず)

公立大学法人旭川市立大学 地域創造学部地域創造学科 教授

東京都出身。北海道大学大学院教育学専攻修了。大学卒業後、日本フィルコン株式会社、池協会計事務所、AIR DO北海道国際航空株式会社、株式会社ホテルオークラ札幌などの勤務を経て、2010年より札幌国際大学に奉職し、2025年より現職に就く。本務の傍ら、内閣府地域活性化伝道師、北海道住宅供給公社理事、旭川市工芸センター運営委員会委員、旭川市国際交流委員会委員長、一般財団法人北海道開発協会評議員、一般社団法人和食文化国民会議全国「和食」連絡会議「和食」地域特派員なども兼務する。



今回は北海道の北西部、日本海沿岸に位置する留萌管内の留萌市、増毛町および羽幌町（焼尻島）など、海岸線オロロンラインを旅した際に訪ねたまちをご紹介します。留萌管内の中心である水産都市留萌市は、1955（昭和30）年ころまではニシン漁とともに発展した港町です。市内にはニシンの卵である「かずの子」の商品を製造する水産加工会社が多く、その加工生産量は日本一を誇り、黄色いダイヤとして永年にわたり留萌を発展させたまちの基幹産業となっています。近年では、お正月の縁起物として重箱の詰め物や松前漬をはじめ、チーズと合わせた珍味や辛子マヨネーズの和え物など酒の肴^{さかな}に至るまでバリエーション豊富です。旧留萌駅舎の近くには、にしんづけを看板商品とする老舗漬物店もあり、全国各地で開催される北海道物産展では多くのファンが会場に駆けつけています。

留萌市は夕日の美しいまちとしてもつとに有名で、日本海に静かに沈む夕日は「日本一の落陽」といわれ、夕日の絶景スポットとして知られる黄金岬海浜公園で眺める夕日はとても見事なものです。

留萌産にこだわり誕生した夕日に映える小麦

2011（平成23）年秋、留萌・麦で地域をチェンジする会（仲田隆彦^{なか たかひこ}会長／フタバ製麺社長）は、留萌産の小麦を使った商品「RuRu Rosso（ルルロ Rosso）」を誕生させました。留萌を意味するアイヌ語ルルモツペの「ルル」とイタリア語で「赤」を意味する「ロ Rosso」を組み合わせた造語で、赤は夕日の意味もあります。この名称には美しい夕日のまち留萌ならではのこだわりと、ふ



船場町1丁目 井原水産本社
「かずの子オブジェ」



栄町2丁目 丸夕田中青果
「やん衆にしんづけ」



大町2丁目 黄金岬海浜公園で望む「日本一の落陽」
（写真提供：留萌市地域振興部）



ルルロ Rosso「^{のぼり}織、生パスタ麺、乾麺」
（製造：フタバ製麺、販売：お勝手屋「萌」ほか）

るさと留萌をこよなく愛する熱い想いが込められています。豊かな風味とモチリとした食感、小麦生産から小麦粉の加工まで留萌管内で行われ、自然豊かな「留萌」が表現された地域が誇る逸品です。

留萌管内にはルルロッソを使った料理を味わえる飲食店が数軒あります。留萌のまちなかの「Cafe Boo」では、ゆったりとしたレイアウトの店内でルルロッソのミニバゲット、ピザ生地や各種パスタを味わえます。



開運町3丁目 Cafe Boo「店舗外観、ピザ・パスタ」

このほか、留萌のまちなかを散策すると、永年にわたり常連客が足繁く通われるレトロな喫茶店も数軒あります。旧留萌駅舎前には、昭和を感じさせる銀器のシュガーポットやレトロな雰囲気^{しつら}の設えで、ゆったり静かに過ごせる喫茶店があります。かつて列車が走り賑やか^{にぎ}だったまちの往時に想いを馳せながら、旧駅舎を見つめ、旅先の静かな港町でゆっくりと流れる自分時間を心地よく過ごせる素敵なお店です。



米町1丁目 旧駅舎前に佇むレトロな銘喫茶 きたの
「大きな窓辺の客席から望む旧留萌駅舎、ケーキセット」

豊かな文化薫り、海山の幸に恵まれる 増毛町

かつてJR留萌本線の終着駅があり、古くはニシンのまちとしても栄華を極めた増毛町。旧増毛駅舎周辺のふるさと歴史通りには、往時の繁栄ぶりを物語る旧商家丸一本間家（国重要文化財）をはじめ、日本海の厳しい風雪にも耐え年月を重ねた石造りや木造の歴史的建築物が建ち並び、高台には戦前に建築され2011（平成23）年まで使用されていた木造校舎の旧増毛小学校などもあります。2001（平成13）年、これらの建築物は第1回北海道遺産（NPO法人北海道遺産推進協議会による選定）に選ばれ、休日には各地から多くの観光客が増毛を訪れています。増毛にはこうした文化的な地域資源とともに、豊かな海幸、銘酒、数多くの果樹園もあり、食と文化を堪能できます。



弁天町1丁目 旧増毛駅舎（現在は観光拠点）
1921（大正10）年開通当時の様式に復元された旧駅舎



弁天町1丁目 旧増毛駅前に建ち並ぶ歴史的建造物
「旧富田屋旅館、風待食堂（増毛町観光案内所）」



稲場町1丁目 国稀酒造「店舗外観、代表銘柄「国稀」」

旧増毛駅前に建ち並ぶ歴史的建造物を眺めながらふらりと歴史通りで歩みを進めると、風格ある建築物の国稀酒造が現われます。1882（明治15）年に呉服商を営む本間泰蔵氏がさまざまな事業展開を進めるなかで、暑寒別岳の伏流水を生かし創業した日本最北の酒蔵です。この名水と地元の酒造好適米「吟風」から誕生する銘酒には全国にファンがいます。近年、留萌ダムのトンネルで日本酒原酒の低温熟成や、クラフトビール醸造とビアホール開設にも取り組んでいます。

増毛のまちなかから暑寒別岳に向かう途中には果樹園が軒を連ねるフルーツ街道があり、暑寒別岳からの清流、水はけの良い土壌、昼夜の温度差も大きいことなどを生かして林檎、葡萄やサクランボをはじめ多くの果物が栽培されています。このほか、この沿道には増毛の林檎を発酵させてシードルを醸造するもう一つの地酒「増毛フルーツワイナリー」もあります。同社では2025（令和7）年秋に国内随一のピープルズチョイス・テイastingコンペティションであり国際的なサイダーイベントにおいて、増毛産林檎で醸造したシードル「ボム・スクレ」が銀賞を受賞しました。

取材時、旧増毛駅舎に戻る帰り道に、ルルロッソで挽いた小麦粉に、地元銘酒国稀の酒粕を混ぜて焼いた食パンをはじめ、かずの子や地元産食財にこだわったパンを販売するパン屋「スカンピン」もあります。



暑寒沢253 ヤマセン仙北果樹園「店舗外観、果樹園」



暑寒別183 増毛フルーツワイナリー「店舗外観」

畠中町3丁目 パン屋 スカンピン「酒粕本食（食パン）」

豊かな海幸が溢れ、温かな優しさ紡ぐ 羽幌町

羽幌町は北海道北部の日本海に面し、留萌管内のほぼ中央部に位置し、沖合に焼尻島と天売島の二つの島を有するまちです。基幹産業の漁業では甘海老をはじめ帆立、タコ、ウニなど豊富な魚種に恵まれています。例年、甘海老漁の時季を迎えると、甘海老が井ぶりを埋め尽くしご飯が見えない井飯を提供する飲食店には旬の味を求める大勢の観光客が行列をなしています。

羽幌港からフェリーに乗り1時間で渡る焼尻島は、豊かな原生林に覆われ、原生花に恵まれるとともに、潮風を受けて豊富なミネラル分を含んだ牧草を食べて育った焼尻めん羊など、豊富な資源に恵まれています。羽幌のまちなかには1965（昭和40）年創業の「緬羊工房喫茶ガロ」で、喫茶の傍ら永年にわたり焼尻めん羊で糸を紡ぎ、地元の素材を生かした草木染めや編み物の教室も行っており、「憩いの場」となっています。



羽幌町幸町57 蝦名漁業部
「店舗口ゴマーク、甘海老丼、甘海老の各種加工品」



羽幌町南4条3丁目 緬羊工房 喫茶ガロ
「店舗外観、店内に展示される綿羊の編み物」
※地元企業との連携により、羽幌町で誕生した赤ちゃんに贈る焼尻めん羊の毛を用いたベビーフトンも制作しています

心洗われる至福の愛ランド 焼尻島

フランス沿岸地域ノルマンディー地方の観光地モン・サン・ミッシェルやピカルティ地方のソム湾では、潮風を受けミネラル分を豊富に含んだ牧草を食べ生育した子羊肉が「プレサレ（仏語：préは牧草地、saréは塩を意味する）」と呼ばれ、最高品種の羊肉としてフランスの美食家たちの舌を唸らせています。ここ焼尻島の牧場で飼育されるサフォーク種の羊も、日本海の潮風に吹かれたミネラル豊富な牧草で育ち、首都圏の有名店をはじめ、多くの腕利きの料理人たちが至高の食財として注目しています。宿泊先での夕食時、オプションメニューでサフォーク種の肉をいただくと、柔らかく口中にはんのり甘みが広がる美味しさです。

焼尻港沿岸には、かつてニシン漁で栄華を築いた網元小納家の屋敷が、焼尻の郷土史を伝える施設として公開されています。見学を通じて当時の島の暮らしや時代の変遷を見つめることができます。郷土館見学後、沿道脇にある樹のトンネルとなっている坂道を上ると、隠れ家のように静かに佇む喫茶店があり、話題豊富なアーティストのオーナーとの歓談、素敵な設えの空間でホッくり寛ぐことができました。そのお店の先にはオンコ（イチイ）をはじめ豊かな原生林が広がっており、林道散策で心が洗われるひとときを過ごせます。



焼尻字東浜183 焼尻郷土館（旧小納家）「外観」
※島の歴史を紐解き、産業史を見つめることができます



焼尻字東浜 Cafe de Atelier おくむら「店内設え」
※自然林近くに静かに佇む、上質な設えの隠れ家的な銘喫茶、築120年の古民家をもとに建て直された至福の空間です



焼尻字東浜160 ゲストハウスやすんでけ「外観、夕食」
オーナーが島で採った海藻や山菜など滋味豊かな食財が並ぶ食卓



焼尻字東浜 焼尻の自然林（国指定天然記念物）
「自然林入口の看板、オンコの奇木「竖琴の木」」



焼尻字白浜256 焼尻めん羊牧場 至高の食財生産と牧歌的な風景が、焼尻島の重要な観光資源となっている牧場